



広島オーストリア協会

会 報

No.43

2020年4月30日発行

編集・発行／広島オーストリア協会

〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号

広島ホームテレビ 総務局内

TEL (082) 221-4964 FAX (082) 221-4905



市民庭園から見るウィーン市庁舎

ご 挨拶



広島オーストリア協会 会長

大 辻 茂

会員の皆様方には、平素より広島オーストリア協会の活動に、ご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の広島オーストリア協会は、6月に年次総会、8月には講演会とビアホールの会、12月にはクリスマス例会で、年間を通じて多くの会員の皆様にご参加いただき、賑やかな社交の場となりました。

日本とオーストリアの間で修好通商航海条約が締結されてから150周年の節目の年となった昨年、2月にオーストリア共和国連邦の当時のセバスティアン・クルツ首相が、9月には、現職のアレクサンダー・ファンデアベレン大統領が相次いで来日し、両国の絆をさらに深めました。特にクルツ首相は本人の希望で広島を訪問され、原爆資料館で原爆の破壊力を思い知らされ、『被爆者と連携して、核軍縮のために一緒に闘いたい』と述べられました。経済、文化だけでなく世界平和に向けての取り組みにも、今後、当協会がお役にたてればと強く思い知らされました。

2016年に赴任されたフーベルト・ハイッス大使がこの春、任期を終え本国に帰国されました。本年2月に行われたフェアウエルパーティーに私もご招待して頂き、広島平和記念式典に出席されたことや、宮島の弥山に登山されたことなど、広島の思い出を楽しそうに話して頂きました。ハイッス大使は奥様がインドネシアの大使をされているため、ウィーンに戻ってからも単身で過ごされるようです。

今後とも会員の皆様にオーストリアをより身近に親しんでいただけるよう、活動の充実に努めて参ります。皆様方の力強いご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



- 日 時 2019年6月5日(水) 18:00~20:00
 ■ 場 所 ANAクラウンプラザホテル広島
 ■ 出席者 93人

駐日オーストリア大使館商務部のアーノルド・アカラー副商務参事官をゲストにお迎えした。演奏は、女性グループのブランシュ弦楽四重奏団。会員はヨーロッパにちなんだ音楽でオーストリアに思いを馳せた。



2019年度事業報告

2019年度理事会・総会

6月5日(水) ANAクラウンプラザホテル広島(参加者:93人)

講演会・ピアホールの会

8月22日(木) シェラトングランドホテル広島(参加者:66人)

クリスマス例会

12月12日(木) リーガロイヤルホテル広島(参加者:102人)

ケーキと音楽を楽しむ会

3月7日(土) ホテルチューリッヒ東方2001(中止)

2020年度事業計画

2020年度理事会・総会

6月10(水) ANAクラウンプラザホテル広島

講演会・ピアホールの会

8月

クリスマス例会

12月

2019年度役員(2019年6月1日現在)

役 員	氏 名	現 職
会 長	大 辻 茂	(株)広島ホームテレビ特別顧問
副会長	尾 木 朗	(株)広島銀行取締役常務執行役員
	松 本 憲 二	マツダ(株)コーポレート業務本部長
	光 井 安 子	音楽家
専務理事	草 本 健 資	(株)広島ホームテレビ取締役総務局長
理 事	井 上 隆 志	(公財)ひろしま国際センター専務理事
	小 田 宏 史	(株)もみじ銀行頭取
	北 村 浩 司	(株)中国新聞社常務
	久 保 雅 史	広島エフエム放送(株)社長
	熊 平 雅 人	(株)熊平製作所会長
	グレーゴル・Bチェルス	駐日オーストリア大使館公使
	小 溝 泰 義	(公財)広島平和文化センター理事長
	佐 野 譲 顯	広島テレビ放送(株)社長
	畑 矢 健 治	(株)中国放送社長
	松 本 茂 太 郎	福山瓦斯(株)社長
	箕 輪 幸 人	(株)テレビ新広島社長
	三 吉 吉 三	(株)広島ホームテレビ社長
	吉 中 康 麿	夢未来企画(株)社長
監 事	小 川 司 徳	中国電力(株)副社長
	山 村 浩 志	広島信用金庫 地域交流部長

運営委員

役 名	氏 名	現 職
委 員	阿 部 秀 造	(株)阿部洋酒店社長
	宇 田 均	元(株)広島自センター社長
	内 海 輝 雄	オフィスU代表
	隈 元 泰 治	(株)もみじ銀行 経営管理部部長
	熊 本 良 平	(公財)ひろしま国際センター交流部長(兼)総務課長
	小 坂 哲 也	広島国際大学教授
	定 本 晴 路	マツダ(株) 総務部地域リレーショングループマネージャー
	上 口 雅 彦	(公財)広島平和文化センター国際交流・協力担当部長
	田 中 勝 邦	広島カナダ協会・広島県日韓親善協会 理事

特別役員

役 名	氏 名	現 職
特別顧問	フーベルト・ハイッス	駐日オーストリア大使
名誉会長	橋 本 宗 利	(株)広島ホームテレビ参与
顧 問	川 野 祐 二	エリザベト音楽大学学長
	岸 田 文 雄	衆議院議員
	湯 崎 英 彦	広島県知事
	深 山 英 樹	広島商工会議所連合会会頭
	松 井 一 實	広島市長

講演会・ビアホールの会

■ 日 時 2019年8月22日(木) 18:00～20:00

■ 場 所 シェラトングランドホテル広島

■ 出席者 66人

講演は、国際青年奉仕会の日本側担当者 フルート講師でドイツ語翻訳家でもある植田恭子氏、留学で訪れ

た事がきっかけで魅せられた、ウィーンの魅力作曲家シューベルトと関連付けてお話ししていただいた。又引き続き行われた懇親会では、ウィーン国立音楽大学ご卒業で、植田氏のお嬢様でもある植田ゆうこ氏にピアノ演奏をして頂いた。



クリスマス例会

■ 日 時 2019年12月12日(木)18:00～20:00

■ 場 所 広島リーガロイヤルホテル広島

■ 出席者 102人

広島出身で現在オーストリアのグラーツ芸術大学大学院に留学中。左手のピアニストとして全国で活躍して

いる瀬川泰代氏に、ピアノ演奏をして頂いた。又、恒例のクリスマスプレゼント抽選会で会場は一つになり、訪れた会員たちは大いにクリスマス気分を満喫した。



「私とウィーン／ウィーンの作曲家、フランツ シューベルト」

国際青年奉仕会の日本側担当者 フルート講師 ドイツ語翻訳家 植田 恭子氏

ジーツインスキーの『ウィーンわが夢の街』という有名な曲がございますが、私にとってウィーンはまさにわが夢の街、そして第二の故郷です。なぜこうもウィーンは私を惹きつけてやまないのかと言うと、20代で初めて留学したウィーンの印象が際立っているため、何よりひとりのオーストリア人女性と出会があったからです。



彼女は名前をヘルミーネ ヘラーといい、私たちは彼女をFrau Dr. Hellerと呼んでいました。彼女は当時の私の大家さんでした。彼女はすでに亡くなってしまいましたが、今でも私の2番目のお母さんであることに変わりはありません。私はときどき思うのです。仮にこの最初のウィーン留学の体験が悲惨なものだったら、ウィーンに対し今と変わらぬ思いを抱いているだろうか。これまでに一体どれだけウィーンを訪れたことでしょうか。ヘラーさんのお陰でウィーンは思い出に溢れ、今なお私を魅了してやみません。つくづく彼女との出会いを有難く思います。



ヨーロッパの音楽界は9月に新しいシーズンがスタートします。最初の頃の私はオペラの大スペクタクルにすっかり魅了され、昼間は学校と練習、夜は連日オペラ通いでした。そんなある日、ヘラーさんが、「恭子はオペラにばかり通って、どうして歌曲(リート)は聴かないの」と聞いてきました。そして彼女の部屋で聴かせてくれたのがディートリッヒ フィッシャーディースカウの歌うシューベルトの歌曲集「冬の旅」でした。それからしばらくして今度はフィッシャーディースカウの歌曲の夕べに招待してくれました。その夜のプログラムはフーゴ ヴォルフとフランツ シューベルトの歌曲でした。オペラが熱狂的な熱い興奮を与えてくれるとしたら、歌曲はしみじみとした深い感動をもたらし、それは熾火のようにいつまでも心の奥底に残りました。その日を境に私は熱心に歌曲を聞くようになり、中でもシューベルトは私にとって最も大切な作曲家となったのです。



フランツ ペーター シューベルトは、ウィーンで生まれウィーンで亡くなったオーストリアを代表する作曲家です。彼は1797年1月31日、現在のウィーン市9区、当時はまだウィーン市には含まれていなかった周辺部のリヒテンタールに生まれました。

9区のヌースドルファー通りにある彼の生家は、現在では『シューベルト博物館』になっています。シューベルトのお父さんは教師、後に自ら運営する学校の校長、お母さんは、結婚前は料理人でした。シューベルトのお父さんは、ごく早い時期からシューベルトの並外れた音楽的才能を見抜いていました。音楽教育はじきに父親の手には負えなくなったようです。美しいボーイソプラノの声を持っていたシューベ

ルトは、宮廷礼拝堂の聖歌隊メンバーにも選ばれ、寄宿制神学校コンヴィクトで学びました。そこでは有名なイタリア人作曲家、アントニオ・サリエリからも教えを受けました。

シューベルトの身長は160cm足らずで低め、どちらかと言えば少々太っていたようです。髪はくるくるとカールし、唇は厚く短い鼻でした。極度の近視のせいで常にニッケル製のメガネをかけていました。



急に曲が閃いたときに、すぐに楽譜が書けるよう就寝中もメガネは外さなかったそうです。彼の友人たちは親しみを込めて彼に“キノコ”というニックネームを与えていました。

シューベルトは生涯独身で、報われない恋も何度かあったようです。17才の時1才年下の初恋の人、テレゼ・グローブに出会いますがこの恋は成就しませんでした。

ヨーゼフ・フォン・シュパウンをはじめフランツ・フォン・ショーバー、ヨハン・マイヤーホーファー、ヨハン・ミヒャエル・フォーゲルなどシューベルトの友人たちは、作曲家としてのシューベルトを大いに助け、住まい、食事の賄から、彼が自由に練習できるピアノ、五線譜に至るまで提供しました。天才を目の前にしたとき、人はその人のために何かせずにはいられない、というよりはむしろ、その圧倒的なエネルギーに周りの人は巻き込まれてしまうのかもしれませんが。シューベルトを中心としたサロン“シューベルト・ティー・アーデ”では、彼の友人の文化人たちが集い、彼はそこで自作の作品を発表していました。

シューベルトはその短い生涯に於いて、モーツァルト同様実に多くの作品を残しました。特に歌曲はおおよそ600曲作っていて、彼が後の人々に“歌曲の王”と言われるのはそのためです。

シューベルトの芸術歌曲は、様式から見るとロマン派の時代に分類されます。“ロマン派の”という概念は、本来18世紀の文学に端を発し、“小説風の”あるいは“物語風の”という意味で使われていました。音楽に於いてはむしろ“感情の赴くまま”“情緒豊かな”といった



キャラクターを意図しています。1800年から1850年にかけてはフランス革命の影響を色濃く受け、そこから“新しい市民階級”が生まれました。この立場からロマン主義的な生命感情を特徴づける、更なる特性が生まれました。例えば、永遠への憧憬(どうけい)、陽気さあるいは悲しみといった感情表現、恋の悩みなどです。同時に生や死の意味、場合によっては死へのあこがれについて熟考されました。作曲家や抒情詩人たちは森や水といった自然との結びつきの中で、言葉や音楽を通して個人的センチメントを表現しました。



シューベルトの歌曲のうち約70曲はドイツの大文豪ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテのテキストによるものです。シューベルトはごく早い時期からゲーテのことを知っていましたが、ゲーテは彼の存在を全く知りませんでした。シューベルトは3度、自身の作品をゲーテに送りましたが、多忙ということもあったでしょうがシューベルトが無名だったということで、それらは彼の眼には留まりませんでした。シューベルトが天賦の才能に恵まれた類まれな作曲家だと、ようやくゲーテが気付いたときには、シューベルトはすでにこの世を去っていました。

シューベルトは25才の1822年以来、病に侵されていて、1828年11月19日、わずか31才という若さで亡くな

りました。梅毒が原因ということです。しかし、実際に梅毒には感染していたようですが、死に至った直接の原因は水銀塗布治療がもたらす中毒症だったのではないか、というのが最も有力な説です。いずれにしてもはっきりとした決め手になる証拠が乏しく、研



究者たちにとってはもどかしい限りのようです。

ドイツロマン派の作曲家フランツ リストはシューベルトを世界中で最も詩的な作曲家と称しました。シューベルトの時代、歌の歌詞はイタリア語が主流でしたが、彼はあくまでドイツ語によるテキストにこだわりました。彼が暮らした街と人々が話すドイツ語が

彼の音楽そのものだったのです。

今から34年前の夏の夜を、私は毎晩のようにヘラーさんと過ごしました。月明かりに照らされたバルコニーで、ろうそくの灯りのもと、彼女はしばしばゲーテやリルケの詩を語ってくれました。今なお悔やまれてなりません、当時の私の語学力ではその言葉の意味を理解することはできませんでした。しかし彼女の朗読はまるで音楽のように私の耳に心地よく響いたのです。



植田恭子氏 プロフィール

エリザベト音楽大学器楽科フルートコース卒業。

同大学音楽専攻科、並びに音楽研究科修了後、オーストリア・ウィーン市立音楽院に留学し、1年間でティプロムを取得。その後グラーツ音楽大学でも研鑽を積む。

更に、2004年から一人娘がウィーンに留学している関係で、定期的にウィーンを訪れ、その都度ドイツ語インスティテュートでドイツ語を学んでいる。

現在はフルート講師、及びドイツ・ベルリンに拠点を置く、国際青年奉仕会の日本側の担当者として従事している。又、フリーランスの翻訳家としても活動中。

編集後記

ハイッス大使が、この春退任され、又、新しい大使をお迎えすることになりました。私が事務局を担当してから3人目の大使をお迎えすることになります。思えば、前任のツィムブルグ大使、そしてハイッス大使、歴代の大使を宮島にご案内し、会食を共にするチャンスに恵まれました。ともに精力的な方で、予定になかった弥山登山をお二人とも突然希望され、革靴のまま登山をしたことを覚えております。もちろん、8月6日の平和記念式典にもご出席され、資料館では原爆の惨状に強いショックを受けられていました。オーストリアは核兵器禁止条約に向けて強い影響力のある国です。広島オーストリア協会が縁で、何度か広島に脚を運ばれたお二人の、今後の活動に期待したいと思います。

(事務局 野崎賢治 記)